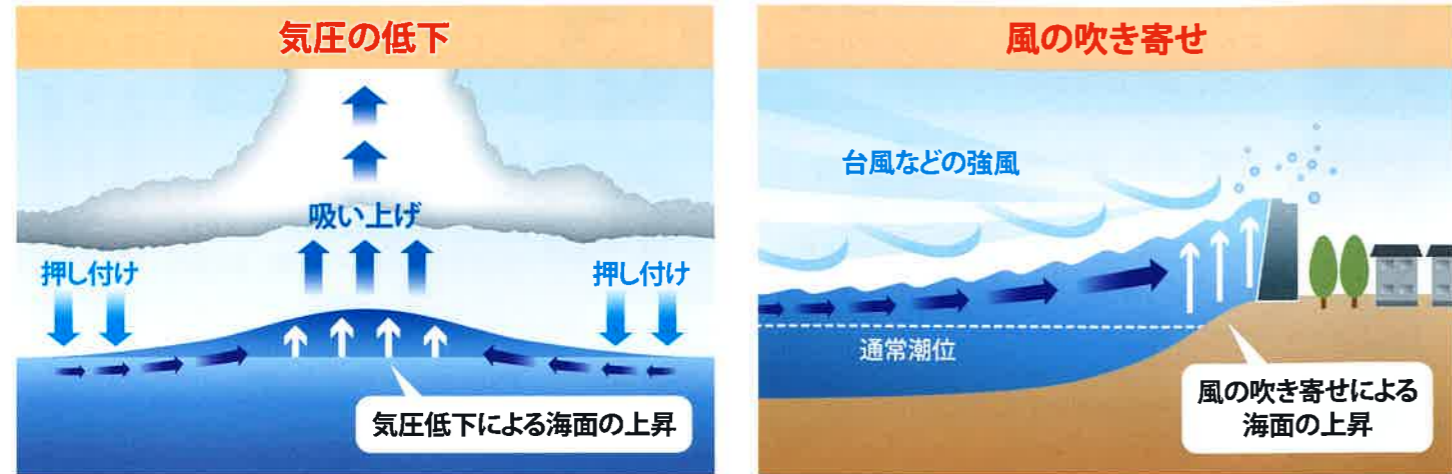


高潮への備え

高潮発生のしくみ

高潮とは台風や発達した低気圧によって、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。高潮発生の主な要因としては、以下の2つがあります。



台風や低気圧の中心気圧は周辺部より低いいため、周辺部の大気が海面を押し寄せ、また、中心付近の大気が海面を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。

台風などの強風が沖から海岸に向かって長時間にわたり吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面が異常に上昇します。

夏から秋にかけて潮位が高くなり、浸水や冠水が発生しやすくなります！

九州では、海水の熱膨張などの影響により、6月中旬～11月中旬の潮位が高くなります。特に大潮の期間中の満潮時に、台風や低気圧の接近による高潮被害が発生するおそれがありますので、注意が必要です。

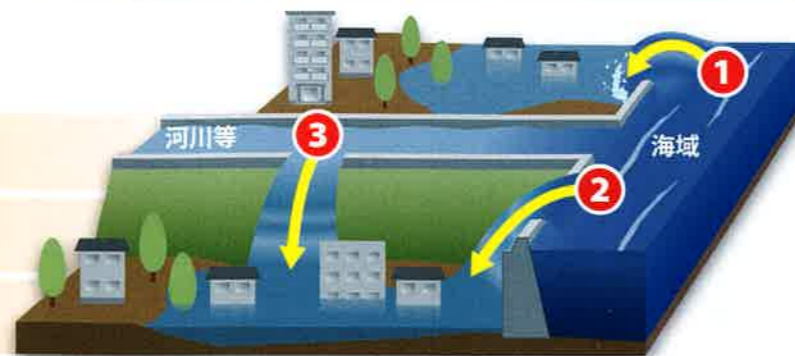
高潮の被害を受けやすい場所

高潮による海面上昇は、海底地形や海岸形状によって大きく異なります。次のような場所では高潮災害に対する警戒が特に必要です。



高潮による主な浸水原因

- ① 高波による堤防・護岸からの越波
- ② 高潮による堤防・護岸からの越流
- ③ 洪水による河川堤防からの越流



各浸水想定区域の想定条件について

各浸水想定区域の計算条件は、以下に示すとおりです。なお、ある一定の条件により解析した結果のため、各種災害の想定区域に含まれていない地域でも、災害の発生状況や地形の利用状況などにより浸水するおそれがありますので、注意してください。

内水・土砂災害マップ 内水浸水想定区域について

内水浸水想定区域は、想定される最大の降雨が町内全域に一律に降ったと仮定して算出したもので、地形的に浸水しやすい場所を示しています。また、区画整理及び港湾整備事業などの地形改変により、この浸水想定区域と異なる場合があります。
*内水浸水想定区域のほか、福岡県が指定した土砂災害(特別)警戒区域をあわせて表示しています。

想定降雨量 153mm/h 【参考】既往最大降雨(平成30年7月豪雨) ▶ 苅田町:48mm/h ▶ 朝倉市:139mm/h

実施機関:苅田町上下水道課(平成31年3月)

洪水マップ 洪水浸水想定区域について

このマップには、長峽川・小波瀬川および今川の各浸水想定区域を重ね合わせ、深い方の浸水深を採用した浸水想定区域を示しています。また、洪水調整施設の整備状況をふまえた計画規模の降雨による浸水想定区域と、想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域の2種類の図があります。なお、支川のはん濫や、内水および高潮によるはん濫等は考慮されていません。

長峽川・小波瀬川		今川	
計画規模降雨	長峽川流域の9時間の総雨量219mm	計画規模降雨	今川流域の24時間の総雨量315mm
想定最大規模降雨	長峽川流域の9時間の総雨量729mm	想定最大規模降雨	今川流域の24時間の総雨量958mm

実施機関:福岡県河川管理課(平成30年4月)

高潮マップ 高潮浸水想定区域について

高潮浸水想定区域は、日本に接近した台風のうち既往最大の規模を基本とするだけでなく、台風経路についても豊前豊後沿岸で高潮偏差が最大となり、施設では防ぐことができないような**想定し得る最悪の事態を前提**として作成されています。

想定台風

- 中心気圧:900hpa 【参考】既往最大台風▶ 室戸台風911hpa
- 最大旋回風速半径:75km(伊勢湾台風を想定)
- 時速:73km(伊勢湾台風を想定)
- 進路:北西進型
- その他 河川流量を考慮(9時間の総雨量219mm)

実施機関:福岡県港湾課(令和元年12月)

浸水深について

この防災情報マップに示す内水・洪水・高潮による浸水深は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。(津波による浸水深については、46ページをご覧ください)

